

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4078300169		
法人名	社会福祉法人 立花福祉会		
事業所名	フラワーハイム		
所在地	福岡県八女郡立花町大字下辺春5460番地 〒824-0073 (電話) 0943-37-1611		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年12月21日	評定確定日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 1日)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 11月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人 常勤	7人 非常勤	人 常勤換算 4.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 階建ての～ 階部分		
------	----------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		780円程度	

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1		名	要介護2		4名
要介護3	4名		要介護4		1名
要介護5	名				
要支援1	名		要支援2		名
年齢	平均 88.3歳	最低	78歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村内科医院 /林医院 /大石歯科(訪問歯科)
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山の木々に囲まれた自然豊かでのどかな環境にあり、入居者の「尊厳」を大切に「人として、普通にその人らしく暮らしたい」という理念のもと、安らぎの雰囲気を感じさせるホームである。入居者は同敷地内の特別養護老人ホームの行事参加や町内のマラソン大会見学、収穫祭への参加などを通じて、地域に受け入れられ支えられ、理念のごとく、いままで暮らした「家庭」のような普通の暮らしを営んでいる。また、地域高齢者が利用しやすいように低い料金設定や運営推進会議への入居者参加など、入居者一人ひとりが尊厳を持って生活できるように、個々の入居者の立場に立ったケアに取り組む姿勢がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果は、ミーティングや運営推進会議で報告し、提案事項は全職員で検討し、センター方式の採用や記録様式の工夫が積極的に行われるなど、改善の成果が見られ、サービスの質の向上に生かす取組みがある。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、全職員で自己評価に取り組み、自己評価及び外部評価の改善点を理解し検討していく取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は利用者、家族、地域住民、行政職員、介護支援専門員、同法人の特別養護老人ホーム施設長の参加により2ヶ月毎に開催されている。ホームの概要や外部評価結果の報告の他に、家族からの相談・意見が出されるなど、質の向上への取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) ホーム便りを通じて入居者の暮らしぶりを伝え、家族の面会時の声かけやケア記録を提示しながらの状況説明、年3回の家族会、2か月毎の運営推進会議など、様々な機会を利用した家族の意見や思いなどを表出していただくような取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内のマラソン大会や収穫祭への参加、小中学生、養護学校生徒の見学や体験学習の受け入れなど、地域の人々との交流がある。また、法人内との合同交流の夏祭りや花火大会へ地域の人々が参加するなど、地域の人々との交流を深めている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を基に、地域交流を重視した理念・ 方針を全職員で協議し作り上げた。職員は地域との かわりを意識しながら常に業務に携わっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念が掲示されており、自然に目に入る 工夫がある。また、朝礼での唱和、日々の業務を通じ て理念に基づいたケアの内容などについて協議され るなど、理念の実践に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内のマラソン大会や収穫祭への参加、小中学生、 養護学校生徒の見学や体験学習の受入れなど、地 域の人々との交流がある。また、法人内施設との合 同夏祭りや花火大会へ地域の人々が参加するなど、 地域との交流を深めている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	全職員で自己評価を行い検討する取組みがある。 前回の評価結果は、運営推進会議での説明やミー ティングにて報告を行い、センター方式の採用や記録 様式の工夫に積極的に取り組まれるなどの改善が見 られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が利用者、家族、地域住民代表者、行政職員、介護支援専門員、同法人の特別養護老人ホーム施設長、職員の参加により2ヶ月毎に開催されている。運営推進会議時にはホームの概要や外部評価結果の報告の他に、家族からの相談・意見が出されるなど、質の向上に向けての取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政担当者の参加があり、連携が図られている。また、行政から介護教室の受託を受け、行政との連絡・交流による質の向上に向けての取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し、ミーティング時に勉強会を開くなど、職員の制度への理解を図る取組みがある。入居者、家族への説明等の働きかけは今後の取組みである。		必要となった際に利用が可能となるように、家族会等を利用した定期的な情報提供の機会を設け、制度の説明や窓口の紹介を繰り返し実施するなどの取組みを期待したい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけや3ヶ月毎のホーム便りを通して、入居者ごとの個別状況のお知らせやホーム行事等の案内や報告がある。また、家族会後の個別面談にて心身の状況や健康状態等について、報告を行うなどの取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会時の働きかけ、家族との個別面談などを利用して、家族の意見や思いの表出に努めている。意見箱の設置等を通して意見や要望を出しやすい雰囲気作りへの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動等により、新しい職員が入るときは、馴染みの職員が主にかかわるようにするなどの工夫がある。また、入居者とのコミュニケーション作りを徹底するため、少しずつかわりを持たせる中での関係作りへ取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関して年齢や性別などによる制限は、何ら行われていない。外部研修や法人内研修、資格取得のための研修に対して、勤務調整を行うなどの支援体制がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人全体で、人権に関する勉強会を開催するなど、人権教育や啓発活動への取り組みがある。</p>		
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修案内を回覧し参加を募ったり、研修内容や職員の経験などを加味した上で外部研修参加を促すなどの取り組みがある。また、研修参加の報告会による全職員への周知の体制がある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会での研修や交流会、他のグループホームへの見学、研修を通じての情報交換やサービスの質の向上に向けた取り組みがある。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始前の見学や体験入居等の利用、ケアマネジャーからの情報収集や家族からの聞き取りを行い、本人とのかかわりを多く持つなどの馴染みの関係作りへの工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物や梅干しの作り方や家事のアドバイスを受けたり、感謝の言葉掛けなど、日常のかかわりの中で学び取組みがある。また、職員が入居者に昔の習慣や風習について、相談を持ちかけるなど自然と支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通じて、入居者の思いや希望の把握に努め、家族の面会時や家族会などを通じ、家族などの意向の把握に努めている。また、センター方式により日常のかかわりの中で把握した思いや希望を介護計画書に反映する取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常のかかわりの中やサービス担当者会議にて、入居者及び家族の意向や思いの把握に努め、計画作成担当者や担当職員で原案を作成し、その原案を基にミーティング時に全職員で協議検討し、介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	月1回のカンファレンスでプラン内容についての検 討、評価を行い、その都度の状況変化に合わせて評 価と見直し、再作成が行われている。また、3ヶ月に1 回、サービス担当者会議にて入居者と家族の意向や 希望の確認を行い、プランの見直しや再作成を行うな どの取り組みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	かかりつけ医の受診介助や入院時に家族に代わっ て着替えを届けたり、食事介助を行うなどの本人、家 族の状況に応じて柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	主治医については、契約時に本人、家族の意向を 聞き、かかりつけ医への受診が協力病院の往診がで きるように支援している。また、家族対応によるかかり つけ医受診が困難な場合は、ホームにて支援する取 組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に緊急時や看取りについての対応指針を 説明し同意を得ている。また、入居者の状況に応 じて、家族、主治医、事業所を交えて協議し、方 針を共有していく取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	法人内研修等やミーティング時での言葉遣いや対 応などの指導により、職員の入居者への丁寧なゆっ くりとした言葉掛けや入居者一人ひとりを尊重した対応 が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある が、その時々本人の気持ちを尊重し、決して無理 強いせず、様子を見ながら、食事や入浴などの声か けを行っている。また、入居者のペースにあわせた対 応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	料理の下ごしらえや、配膳、引き膳など、入居者一 人ひとりができる範囲で協力しながら、入居者、職員 共に食卓を囲み、ゆったりと和やかな雰囲気の中で 食事を楽しめるような取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	基本として一日おきの入浴であり、入浴時間等の一 応の決まりはあるものの、入居者の状況に応じて、臨 機応変に対応している。入居者ごとに湯を交換するな ど、入浴を楽しめるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	ラッキョウ漬けや漬物作り、料理の下ごしらえ、洗濯 物たたみ、掃除など、日常的なかかわりの中で入居 者のできることや得意なことを把握した上での働きか けがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常の散歩や買い物、ドライブ、紅葉狩り、花見、初 詣など、外出の機会を多く持ち、車椅子使用の入居 者も同様に外出への支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。入居者のその時々の 動きを細かくキャッチし、さりげない声かけ見守りな ど、安全に配慮した支援がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の消防署の指導による避難訓練が実施さ れ、地元消防団や地域住民の参加が見られるなど、 地域の協力体制がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	併設施設の厨房にて調理し、入居者へ提供してい る。管理栄養士による献立作成や食事摂取量の記録 を行い、栄養面への配慮が見られる。意識的な水分 摂取への声かけやしょうが湯、あめ湯などにて水分摂 取を促す等の支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルに季節の花が飾られ、居室の入 り口には、入居者と一緒に作られた名札が掛けられ るなど、心和む空間作りへの工夫があり、入居者が ゆっくりと過ごしている光景が見られた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、家具やテレビ、シルバーカーなど、入居 者にとって心が落ち着く、馴染みの物が持ち込まれる など、安心して居心地良く過ごすための居室作りへの 工夫や配慮が見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号